

「あなたは守られている」

～悔い改めは神の守り メタノイアの道4～

ヨブ記1：1～12

ある老齢になっていた八十数歳の人が家に火を放って自らの命を失いました。彼は家族が誰もおらず子供もいなく全てを失ったと思っていました。そして飼っていた鶏と猫をわざわざ家から遠く離れた空き地に置いてきて悲惨な最期をむかえたのです。彼は生きる意味を失って死んだのではなく彼は生きる意味を捨てて死んだのです。日本では多くの人が自分の命を絶つという事が言われています。彼らは最後にいつもこの事をするのです。生きる意味を捨てて決断をしていくのです。教会は神の存在と悪の存在を無視する事はできません。なぜかという神様が人を創りそして神様と愛の関係を結ぼうとした時にそれを嫉妬し妬んでその人間を邪魔する奴がいるのです。これは私達の耳元でいつも語りかけあなたに間違った決断を促します。あなたがベストな決断をしようとする時にあなたに誘惑するやつです。イエス様が荒野で試練に会った時に悪魔が誘惑した方法は、まずは人間の欲に向かって語りかけ食べるものという目の前の欲でした。そして二番目は偶像礼拝をさせようとした。三番目は神を試みさせる事でした。また悪魔はいろいろな方法で私達に近づいてきます。「ウツの地にヨブという名の人があった。この人は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。(ヨブ記1：1)」潔白であると書かれています。聖書の中で潔白、正しい人というのは何なのでしょう？それは「元に戻るな」ベストチョイス、この事をやっている人なのです。アブラハムもヨブも失敗します。だけれども戻ろうとする行為が神の前に潔白な者と言わせるのです。悔い改めるといふ行為は神の前に帰るといふ事です。それは全ての債務が清められるという事なのです。悔い改める行為は人に向けるものではなく自らが自らで戻るという行為です。

■ あなたは守られている！！

なぜ悪魔がヨブの人生をみつめて彼の人生を壊そうとしたのかはよくわかります。こうして祝宴の日が一巡すると、ヨブは彼らと呼び寄せ、聖別することにしていました。彼は翌朝早く、彼ら一人一人のために、それぞれの全焼のいけにえをささげた。ヨブは、「私の息子たちが、あるいは罪を犯し、心の中で神をのろったかもしれない。」を思ったからである。ヨブはいつもこのようにしていた。(ヨブ記1：5) これは、わかるようにヨブは罪を犯しています。不安という罪です。アダムとイヴの時より人間の世界には不安という罪があります。まず神から隠れるという不安です。そして自己防衛というものになりそれが私達の人生にどう関わるかという相手の心を自分で勝手に判断するという事に変化していくのです。私達には良心があるにも関わらず、この事に関しては用いないのです。自己義という防衛があるのです。悪魔というのは偶像礼拝だけに関わるのではないのです。神様があなたの心に関わる様に悪魔はあなたの心に関わってくるのです。そしてあなたの一番弱いところを悪魔は知っているのです。ヨブも悪魔に絶えず弱点を見せていたのです。ヨブは罪は常に悔い改めていました。ところが悪魔に使われていたのです。ベストな道というのは一つなのです。ですからこれを選ぶのは本当に難しいのです。ラクダが針の穴を通るより難しいと言われていました。ですから本当に祈り、感じ、自分を見ていないとベストな決断はできません。ではどうやってベストな決断をするのか。「この声に負けない」という事なのです。彼がいるとすれば彼はあなたが人生でなんとかセカンドな決断をしてくれればよいのです。ヨブがちょっと間違いをしてくれたらよかったのです。神様がヨブの事を愛しているのをよく知っている。だからヨブに直に触れることができないのをよくわかってはいる。神様が守っているのだから。「メタノイア」悔い改めとは「視点・考えを後で変える、見直す」という意味であります。失敗した後思い直すという事です。ではサタンとはいったい何なのでしょう？彼は神の計画の破壊はできません。彼らは破壊ができる事を任されていないのです。任せたのは人間なのです。ですから悪魔はその人間から全ての神様の計画を奪う為に人間のところに来るのです。あなた自身に訴えてくるのはあなたの弱さに来るのです。ヨブは本来は息子たちに教育すべきで心配するくらいなら息子と向き合えば良かったのです。ところが彼は心配しました。ヨブはなぜ悪魔に告発されたのですか？なぜ神様は「NO」と言われなかったのか。告発する材料をアダムとイヴの時代からサタンがアダムとイヴから盗んで罪を犯そうとする者を権

利を持っているのです。あなたの人生の決断がされた瞬間あなたの決断の権利を悪魔の権利になるのです。あなたの一番弱いところに触れてきます。どんな時にあなたは悪魔と契約してしまいませんか？悪魔はあなたから、あなたの生きる意味を取りたいのです。それが目的です。神様から離れ去る事、だからあなたに色々な方法で関わってきます。子供、親、夫婦、職場等、あなたの大事な人間関係を壊そうとします。ですから私達がこのような事に生きる意味を置いているのであれば非常に危険です。ヨブは生きる意味を少し間違っていたのです。罪までいっていなかったが、彼は欲にかられていたのです。だから悪魔は告発してきました。私達は自分を滅ぼす罪を悔い改めなければなりません。これは肉体的罪もあるかもしれませんが、しかし一番深い罪は「あなたの心を滅ぼす行為」なのです。それは何なのでしょう？

■ 畏は一つではない 不安・心配・怒り・比較・虚栄・富・・・

あなたが弱いであろうという色々なところに悪魔は畏をしかけます。不安、心配、怒り、比較、虚栄、富、...。この罪がなぜ罪なのか？「それを認めない」からです。罪が罪になる時、欲が罪になる時の境界線は認めるのか認めないかなのです。神様はこんなに簡単な事だからやりなさいと言っているのです。認めたくない時に認めなければいけないのです。これが打ち勝つ方法なのです。あなたの記憶を解決しなければいけません。今日、認めてください。告発させないためです。

■ 悔い改めは債務超過を免責に！！

イエス様はあなたを何度でも免責にしてください。その代わり条件があります。「認めて戻る」のです。また、はずす事はあるかもしれませんが戻るといふ事なのです。悔い改めというものは免責の為にあるのです。あなたの弱さが募っている状態では悪魔が「神様を捨てて私の方に来る」と言っているのです。そこで教会があるので。あなたの弱さを共に取り合う為にあるのです。人は疲れても倒れることはないのです。つまずいても起き上がれなくなる様な事はないのです。なぜかという、みんなが支えている草だからです。一人だったら倒れます。悪魔が告発するとヨブの様に倒れそうになります。だけれども教会という神様の家族がともに支えあっているのです。「二人三人わが名によって集まるところに私がともにいる。」のです。その力はあなたが一人で行っている時に伴います。共にある家族があるからです。これが聖書の原則です。悪魔は打ち負かすものではなく、ちゃんと見張って彼らがどこで存在して、あなたに攻撃しようとしてくるのかを見ておかないといけません。私達がしなければいけないのは全体を見るという事なのです。その最大の秘訣は債務超過を消し去る事で神様に祝福されるのです。認めて反省し、そして戻ればよいのです。

■ 神様に聞く

あなたが何か言われて感情的になった時あなたの人生が狂いそうになった時、聞いてください！人に話す前に！人は解決できません。人は支え合う為には仲良くします。あなたの罪を解決できるのは神様で問題を解決できるのも神様です。人に話すのではなく、神様に話すのです。また、その人の話を聞くのではなく支えてあげるだけでよいのです。私達の心の弱さが、不安が、思い込みがあなたを誘惑してきます。これは生涯、私達につきまといます。でも私達は判断ができます。その弱さを認めて「神様に聞く」という行為です。相手に言ってしまう前に「これは本当にそうなんですか？」人の話を聞いたときに「神様、これは本当に耳元で聞かせる事ですか？」相手は本当にそんな風に思っているのでしょうか？と聞くことができるのです。これはあなたたしかできないのです。神の家族はあなたが倒れない様に支える事ができても決断はできません。あなたがつかわれた場所で自ら決断できる様に家族をおいてくれているのです。悪しき者を甘く見ないで下さい。あなたから、離れ去る様に、そしてあなたが認めて決断できる様に祈りましょう。

(要約者:小根久保 麻由美)

(4月2日)